

令和7年度 学校関係者評価結果

1. 評価日:令和8年3月13日(金)13:30~15:00

2. 評価者:6名

- 1) 関連業界関係者:公益社団法人香川県看護協会 会長
- 2) 高等学校関係者:香川県立丸亀城西高等学校 校長
- 3) 地域住民:保護者
- 4) 卒業生:NHO 四国こどもとおとなの医療センター 副看護師長
- 5) 教育関連有識者:四国学院大学 教授
- 6) 看護管理者:NHO 高松医療センター 看護部長

3. 学校関係者

- 1) 学校長 2) 副学校長 3) 教育主事2名 4) 事務長

4. 評価対象:

- 1) 令和7年度学校運営目標に基づく実施状況とその評価、今後の課題について
- 2) 令和7年度カリキュラム評価結果、学科目別平均点、学生による授業評価結果
- 3) 令和7年度自己評価自己点検結果

5. 評価結果:

今年度の取組として報告された、学生の知識とスキル、思考を統合し、実践できるレベルを目指して行った「逆向き設定による授業」では他の養成所との協働のもと行われていた。学生の主体的学習行動の獲得に向け、教師側の様々な準備と工夫に多くの時間と力を尽くされたことが伝わった。学生の授業評価結果も概ね良好であったようであるが学生の意見をより具体的に聴き取り、教育効果を正確に把握することが今後さらなるブラッシュアップにつながると考える。教員間の授業研修等にも取り組まれており、質の向上に向けた取り組みがなされていると感じた。学生の倫理観等を高める取り組みとしては、母体病院、行政機関、実習施設等と連携されており、学生の自律性、協調性等の人格的成長や醸成を促していることが理解できた。

学生確保では苦慮されているものの、SNS等による積極的な情報発信、次年度さらなる高校訪問数の拡大等が示された。一方で入学生の学力低下につながる事態も生じており、教職員の人員不足という現実を踏まえながらも、教育カウンセラーの採用等、学修支援体制の充実が図られることを願っている。

学生が主体的に学べる環境の整備に努めているという報告があったが、これらは、自律性、キャリア発達にも影響し、重要な取り組みである。より充実した運用を願う。また「ちょこんと箱」(投書箱)の設置は学生の意見を聴こうとする姿勢が感じられる。これをきっかけとして学生と教職員の対話が、ひいては学生の学修支援体制の助けになると考える。